

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム(2018)第18巻:

第&回

## 学会の動向

# 第24回肝細胞研究会を開催して

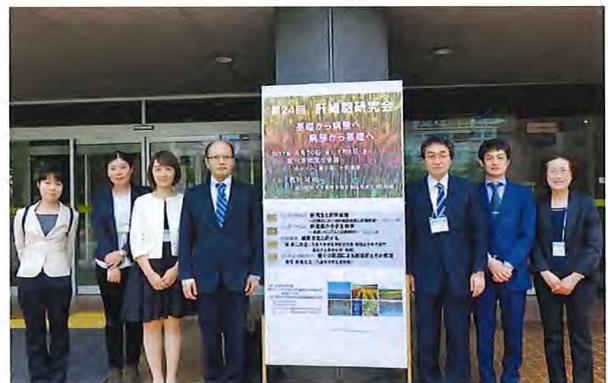
西川 祐 司

平成29年6月30日(金)、7月1日(土)の2日間、旭川市民文化会館において第24回肝細胞研究会を開催いたしました。本研究会を助成していただき、旭川医科大学医師会の皆様方に心から感謝申し上げます。おかげさまで、約200名の方にお越しいただき、多くの素晴らしい発表と熱心な討議が行われ、無事閉会を迎えることができました。これもご支援の賜物と深く感謝しております。

肝細胞研究会は、旭川市では2006年の第13回肝細胞研究会(会長:葛西眞一先生、旭川医科大学外科学第二講座)以来の2回目、11年ぶりの開催でした。本研究会は徳島大学の市原明先生が始められた初代肝細胞培養研究会を前身としており、1994年から肝細胞研究会に発展し、現在に至っております。多彩な領域の基礎研究者と肝臓病の臨床にたずさわる医療関係者が一堂に会し、それぞれの垣根を超えた議論が行われるのが本研究会の伝統であり、これまで多くの新しい研究成果が生まれる契機になるとともに、全国的な共同研究を育む貴重なフォーラムとしての役割を果たしてきました。私は1991年に札幌医科大学で開催された第7回初代肝細胞培養研究会に参加したのが初めてでしたが、そこで大きな刺激を受けたことが現在の私の肝研究につながっております。

今回の研究会は、私たちが病理学を専攻していることもあり、標語を「基礎から病態へ、病態から基礎へ」としました。特別講演では、大阪大学微生物病研究所の原英二先生に「細胞老化と肝がん」のタイトルで最新のご研究成果を紹介していただきました。細胞老化の研究の初期から真の意味で草分け的なお仕事を続けられてきた原先生のご講演は参加者に大きな感銘を与

えるものでした。また、ランチョンセミナー(アレクシオンファーマ合同会社共催)では久留米大学名誉教授の鹿毛政義先生に、先生の豊富なご経験をもとに脂肪肝の病理についての解説をしていただき、基礎研究者だけでなく、臨床に携わる研究者にとっても脂肪肝の複雑な病態を知る貴重な機会になりました。シンポジウムは「肝再生と肝幹細胞~肝再生における肝細胞機能と組織修復~(7演題)」と「肝腫瘍の分子生物学~発癌メカニズムと治療標的~(6演題)」の2つのテーマで行われ、これらに関する研究の最前線が披露され、白熱した議論で盛り上がりました。一般演題は肝臓研究の広い領域をカバーする口演29題、ポスター35題で構成され、いずれも力のこもった興味深い演題でした。ポスター発表は広い展示室を使用し、貼り替えをせずに全期間で掲示することができました。また、今回、初めての試みとして、2日目のポスターディスカッションの前に口演会場で筆頭演者の方々にスライドを使った2分間のプレゼンテーションをしていた



平成29年7月1日  
市民文化会館の玄関前で、教室のスタッフたちと

できました。これによりポスター発表の内容が把握でき、その後のディスカッションが促進されたとの意見が多く聞かれ、主催者側として大変うれしく感じております。

幸い、研究会は両日とも天候に恵まれ、参加された皆さんは初夏の旭川の魅力を存分に楽しまれたことと思います。肝臓の研究に日々取り組んでいる全国の研究者たちが、1年に一度集う、大切な研究会を旭川でお世話できたことは、私自身の研生活にとっての里程標となりました。末筆ながら、改めてご協力に感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。